

市民の希望に全力で応える

偶坂市役所市民課は今日も大忙し。

妖精の着ぐるみを着て町に繰り出す妖精係の美作さん、

バーチャル・タイム・マシンをあやつる時空係の境越さん、

広報係のナジルさんは口を開けば悪口ばかり、

たずね人係の犬花さんは「赤い糸で結ばれている人を探して」と依頼される……。

ポポロ協奏曲

偶坂市役所市民課だより

青池薔薇館 著



四六版・並製・220頁
本体1,500円+税

自作解題

青池薔薇館

わたしの妄想癖を育てた契機はいくつかあるが、そのうちのひとつは、幼い頃からの読書習慣だと思う。実家にあった「世界少年少女文学全集」を読み漁っていたが、最も嵌ったのは『西遊記』だった。おそらく、二十回くらいは繰り返し読んだのだと思う。当該作品の奇想天外な物語の展開に、小さな胸をわくわくさせながら読み込んで、いささかも飽きなかった。

その次は、『千夜一夜物語』ではなかったか。エキゾチックな味わいが、平凡な日常生活に新風を吹き込んだものである。いずれにせよ、子ども向けにリライトされた作品群とはいえ、わたしのころを少しづつ鍛えていったのだと思う。

夢は実現して初めて目の目を見ると言われることが多いが、わたしはそのようには考えない。むしろ、現実よりも夢想の世界の方がはるかに強いリアリティを醸し出しており、夢は夢のまま実現しているのだ。もちろん、現実と夢想を取り違えることはあり得ない。そこはきっちり割り切っている。ともあれ、不如意なことばかりの現実には、何でこだわる必要があるだろうか。

『ポポロ協奏曲』は、わたしのこころに身籠った物語であるが、それを詩の連作のかたちで表現してみた。いわば「大人のメルヘン」と銘打ってもよいだろう。

主な登場人物

わたし……この物語詩の語り部。偶坂市民ではないが、よく同市を訪れている。

美作(みまさか)さん……妖精係。妖精の着ぐるみを着て、街に繰り出すことが仕事。市民のヒーリングを担っている。同じ苗字の遙ばあちゃんとの関係は不明。

美作遙(みまさかはるか)ばあちゃん……この物語詩に二度登場する偶坂市の恩人。

百面(ひやくつら)さん……代行係。変装名人で、遙ばあちゃんのことの恋人。

流暢(りゅうちょう)さん……ろうどく係。市民課のとても声のきれいな若い女性職員。デガラシ君に「こねの時間」のモニターになつてもらっている。この物語詩には二度登場する。

ナジルさん……広報係。古代ナジルの血を引いているのではないかとされている。口は悪いが、腹の中はさっぱりしている。「正直者は損をしない」が、口癖となっている。

板西(いたにし)さん……折衝係。市内で起こった論争を取りまとめる名人。年配の女性職員。犬花(いぬばな)さん……たずね人係。県警の補助として、特殊なケースを扱っている。

秋梨(あきなし)さん……根性係。古代都市スパルタへの留学を経て、現職に就く。偶坂市の応援団長。

境越(さかこし)さん……時空係。BTM(バーチャル・タイム・マシン)の調整役。

幕府来(まくらいい)君……境越さんの助手。偶坂大学の学生。今はアルバイトだが、将来境越さんの後を継ぐつもり。

ソークラテース氏(蘇氏)……古代ギリシアの哲学者。偶坂市に招かれて、しばしば同市の問答大会に参加している。この物語詩には二度登場する。

の考案者でかつ普及者。オソリンピックも取り仕切っている。この物語詩には二度登場する。

荒尾一貫(あらいっかん)氏……元の市民課たべもの係。現在は停年退職している。「アラカ」が愛称。謎の人物と同一人物かもしれない。

アラウンド還暦の謎の人物……荒尾一貫その人ではないかと言われているが、真相は不明。「魔法のランチの仕掛人ではないか」という噂もある。

チャリババ……自転車行進が日課のおばあちゃん。辺留舎町在住の馬場亜里さんではないかとされているが、本人は肯定も否定もしない。

シーツさん……偶坂市民になったのが十年ほど前。サイクルショップを経営するナイスガイ。マイカ(雲母)を用いたオブジェづくりが趣味。

阿仁丸(あにまる)さん……どうぶつ係。親光六バトの生みの親。

次番(じばん)爺さん……亡くなったバトの元の飼主。バトにフラダンスを仕込んだ張本人かもしれない。

復元(ふくもと)さん……元通り係。辣腕女性職員。気苦労が絶えないが、竹を割ったような性格。

板割(いたわり)さん……時貯め係。福祉課から市民課に転向している。恰幅がいが機敏。

森守(もりまも)さん……親林係。環境保護省から転向している森林保安官。「モリノカミ」と呼ばれている。しょくぶつ係の草木さんと共同作業をすることも多い。この物語詩には二度登場する。

物尻(ものじり)さん……なぜなに係。博覧強記の強者。さまざまな分野の専門家とネットワークを形成している。

一ス氏を黙らせたこともある。したがって、この物語詩には二度登場している。

岩壁(いわかべ)さん……総合窓口係。モンスター・クルーマーが市役所にねじ込んで来て大丈夫弁が立ち、体格が立派な岩壁さんが立ちほだかるから。

五味(ごみ)さん……いらぬもの係。偶坂市役所市民課のスタイリスト。市民のマイナス感情を坦々と浄化する毎日である。

住吉(すみよし)さん……くらしかた係。コレクティブ・ハウスの管理運営を肝入りにしている女性職員。一部の人の間では「エンジェル」と呼ばれている。

喜古無(きこなし)さん……きるもの係。ファッションに関するエキスパート。主にファッション・バザールを企画・開催しているが、古着の再生も手もの。

草木(くさき)さん……しょくぶつ係。樹木医の資格を持つ彼は、植物語(樹木語や草花語)にも通じている。森林に向かうときは、親林係の森守さんとよく連携する。

デガラシ君……市民課をよく訪れる暇人。四十を過ぎていたが、小学生のように小柄である。「出酒らしていいから、お茶ちょうだい」が口癖。飄々としているが、けっこう辛口の小父さん。流暢さんの「こねの時間」のモニター役でもある。

河原萬(かわらばん)さん……「ミニミ誌」ニューエールたまさかの敏腕編集長である。さまざまなアイデアをたちどころに生み出すのが特技。愛称は「パンちゃん」。

金(きん)ちゃん……フルネームは近山金次郎。まだ生まれたばかりの赤ちゃんなのに、とてもヤンチャ。やがて、「黒れん坊金ちゃん」と呼ばれるようになる。

金ちゃんの両親……金ちゃんを持て余しながらも、子育て奮闘中。

歴代の市長……行政の長ではあるが、たいがいは極楽トンボ。それでも、市役所の職員が補佐して何とか務まる。

吉田山叢書004

詩集。ポポロ協奏曲

偶坂市役所市民課日より

- 著者 青池薔薇館
- 体裁 四六判・並製・220頁
- 定価 本体1,500円＋税
- 刊行 2024年7月

●著者紹介

青池薔薇館(あおちばらやかた) 1954年、東京生まれ。戸籍名は武藤整司。東京の他、横浜、新潟、京都、高知などを渡り歩き、現在は比叡山の麓に棲息している。ポエム・アルチザン(詩職人)を目指しており、日々詩作に打ち込むしか能のない木偶の坊を自認。本詩集の他に、『黒のソネット』(2020年)、『アルファベット遊戯』(2021年)いずれも、澤穂(さわほ)が上梓されている。



吉田山叢書

吉田山叢書のご案内

新しい叢書を立ち上げました。個性豊かで清新で、後世に残るシリーズを目指し、若い研究者の皆様の原稿を募集しております。お気軽にお問い合わせください。

- ◆文学・歴史・芸術・哲学・教育など主に人文科学分野
- ◆論文・評論・随想・物語などのジャンルは不問です
- ◆博士論文の出版や共著でも結構です

三人社

〒606-8351

京都市左京区岡崎徳成町29-3 岡崎ミントビル

電話 075-762-0368 FAX 075-762-0369

E-mail: office@3nin.jp https://3nin.jp/

ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。

●表示はすべて税別